



Kodo Sasaki stands by a large billboard that recounts the achievements of Masao Fukazawa, a former mayor.

Interest revives in life of pioneering mayor

NISHIWAGA
Iwate Prefecture

Japan's first village mayor to make health care free for seniors is now regaining full media attention half a century after his efforts.

A documentary film is going to be made about Masao Fukazawa, the late mayor of what was then Sawauchi. The village merged two years ago to form Nishiwaga.

At the same time, the Japan Broadcasting Corp. (NHK) is planning to air a program about him in mid-September.

Local residents are also

support group to promote the retelling of Fukazawa's story in late June. The group has 50 members and was recognized as a non-profit organization on Aug. 28.

The group plans to interview people who were involved in Fukazawa's policy and gather data in order to paint a full picture of a municipal government that cherished life. The organization plans one day to build a museum in Fukazawa's memory.

The revival of interest in Fukazawa is happening at a time when Japan is facing a crisis about how to look after its aging citizens, said Kazuo Oikawa, 73, au-

深澤晟雄の業績を掲げた大看板の写真入りで「生命村長に脚光ふたたび」と伝える記事の一部

「生命村長」脚光ふたたび 英字新聞で本会など紹介

9月18日付朝日新聞英字版で、「『生命村長』脚光ふたたび」という見出しで、記録映画制作、深澤晟雄の会の発足、NHKの番組などを取り上げて、西和賀町での動きを世界に紹介しています。

日本国内に在留する外国人向けに発行している朝日新聞英字版で、「日本で初めて老人医療費無料化、乳児死亡率ゼロを達成した村長の業績が、50年を経た今、多くのメディアから注目されていく」と報じました。記事は「旧沢内村の元村長・故深澤晟雄の記録映画が制作中で、NHKも深澤に関する番組を放送する予定。また、多くの地元住民も深澤を称える活動に参加している」と記しています。

「村長ありき」の著者・及川和男氏の「深澤の業績が注目されるのは、日本が抱える高齢化社会への危機感がある」との談話を紹介。記録映画「いのちの作法」の都鳥兄弟の「地域による医師の偏在、所得格差の拡大など人命尊重の社会とは言い難い。現在の日本人に通じる映画を作っている」という談話も載せています。また、同紙は「深澤の業績を語り継ぐNPO法人『深澤晟雄の会』が地元有志により

結成された」と、本会の活動を紹介。佐々木孝道副理事長が設置した大看板の写真入りで、深澤の実績や理念を広め伝える最後のチャンス」という副理事長コメントも載せて世界に発信しています。

会員は115人に
入会は下記へ

NHKテレビの全国放送の反響もあって、深澤晟雄の会に入会が相次ぎ、10月末で正会員が100人に達し、賛助会員の15人を合わせて115人になりました。

また、入会の問い合わせも増えていきます。下記事務局へ電話、FAX、ホームページからの申し込みもできます。会費は年額千円です。なお、寄付金も募っていますが、寄付金は資料収集や保存等の経費に充てることにしています。

今号も裏面があります。



乳児の家庭を訪問して発育状況を見る高橋ミヨさん
(昭和41年2月撮影)

元保健師

高橋ミヨさんに聞く

生命行政支えて20年

佐々木吉男氏逝去

元沢内村助役の佐々木吉男氏が10月23日未明、亡くなりました。95歳でした。

佐々木氏は昭和32年5月、深澤村長のもとで助役に就任。乳児死亡ゼロ、乳児と老人医療費無料化、冬季交通確保などに尽力し、深澤村長亡き後も二人の村長を支えて52年5月までの20年間にわたって生命尊重を村是とする行政にゆるぎない基盤を築かれました。本会の「歴史の証言者」取材直前の急逝で残念極まりないのですが、深澤精神とともに生きた氏の功績を讃え、感謝を捧げつつ、「冥福をお祈りいたします。

深澤語録を訪ねて

「赤ちゃんは村の宝もの」

生命村長 深澤晟雄は、「政治は生命行政を最優先すべきで人命格差は許されないと」いう理念から発する多くの言葉を残しています。毎月連載で深澤語録を訪ねながら、皆さんと「生命尊重の深澤精神」に迫ってみたいと思います。

深澤晟雄の会が取り組む事業の一つに資料収集があります。その一環として深澤村長と歴史を共有した人々を取材する「歴史の証言者」として当時保健師として活躍した新町の高橋ミヨさんを訪ねました。当時は回想してミヨさんは次のように語っています。

深澤村長はよく保健師に、赤ちゃんは個人のものではないんだよ。沢内村の宝ものだから大事にしなさいよ。というのが口癖でした。乳児検診には深澤村長も時々顔を出しましたし、私などは夢にまで赤ちゃんが出てきて、寝てもさめても「赤ちゃん」でしたね。休日も昼夜の別もない保

健活動で、超勤手当でもなかったけど、「村の宝を大事にする」ことにみんなが夢中でした。乳児検診があったから、乳児死亡率をゼロにできたと思います。農作業の働き手だった母親（嫁）に代わって姑が赤ちゃんを検診に連れてくる。それが子育ての意識を変えるきっかけとなり、「おばあちゃん努力賞」が拍車をかけたのです。だから、「赤ちゃんは村の宝もの」という深澤村長の言葉は、今でも脳裏から離れません。

録集余録

英字新聞だけに写真を頼りに探して行く「あった!」。深澤晟雄の大本板の写真が英文に囲まれている。役場の皆方博

さんの翻訳のお陰で本号の記事ができた。9月は「生命尊重の町・西和賀」をNHKが全国に、朝日新聞英字版が世界に発信してくれた。しかし、英文での紹介は初めてではない。ジョイセフ・家族計画国際協力財団から発展途上国の研修生を受け入れて20年以上にもなるが、その教科書とも言べき生命行政施策の英訳本が一九八三年に作られている。一九六九年制作の映画「自分たちで命を守った村」は英語版にもなり、村勢要覧も英文で作られたこともある。すでに生命行政の先駆的取り組みは海を越えて伝わっている。とはいえ、生命行政発祥の地は名実ともに世界に誇れる情報発信基地でありたい。そんな思いで英字新聞を眺めると「深澤精神を継承し、その理念を未来につなぐ」必要性を痛感させられる。(Y)